

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス なないろきっず		
○保護者評価実施期間	令和7年1月16日		～ 年2月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 7人
○従業者評価実施期間	令和7年3月20日		～ 令和7年3月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 3人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自然に囲まれた環境の中、戸外には広場があり、のびのびと鬼ごっこや砂場遊び、水遊びの感触遊び、タイヤ跳びやパドミントンで体を動かす事ができます。また、事業所ではショベルカー等の働く車をみる事ができます。散歩コースには牛がいたり、プランターや畑では、野菜を育てたりと五感を刺激する体験を多く取り入れています。	わくわくするような体験、外で体を動かし気分を発散できるような機会を、多く持つことができるようにしています。 外の広場には、暑い時期には日差しよけのシートを設置し、日陰を作り日差しを防ぐ事ができるようにしています。	広場に乗り物や遊具を少しずつ用意できるといいなと思っています。
2	保護者会を2ヶ月に1回以上、行っています。	保護者会を定期的開催し、保護者と話す機会や、保護者どうし話せる機会、相談できる機会をもつ事ができるように工夫しています。 その際、希望のある方には、個別相談も行っています。 また、保護者会後にはアンケートを実施し、ふり返りを行い要望を取り入れる等、今後の支援へ生かせるようにしています。	保護者会では、保護者様の困り感を事例検討で取り入れる機会を増やしたり、勉強会の機会も増やしていけたらと思います。
3	児童の支援への共通した熱い思い、向上性。 日々のプログラムの充実。子どもたちの好きな活動も取り入れながら、楽しい雰囲気の中で、活動に取り組んでいます。	保護者参加型の体験を多く取り入れるようにしています。 本年度は、ピザ作り、芋ほり、夏祭り、クリスマス会を行いました。他にも仮装して近所の事業所を訪問するハロウィンパーティー、県民の森やめぐりドームへ行ったりとわくわくする体験を大切にしています。	事業所内、事業所外研修の機会を増やしたいと思います。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	開設1年未満のため、事業所の認知度がまだ低い。 事業所の入り口が階段の為、肢体不自由児の受入れが難しい。	児童募集のポスターを各箇所に貼ってもらったり、PR活動のパンフレットを作ったり、小学校のイベント出店を行ったりしたが、PR活動をもっとできることがあったのではないかと思います。また、日々の支援に追われその時間を確保できなかったように思います。	広告、ホームページ等を含め、多くの方々に知っていただけるような取り組みを行っていききたいと思います。
2	職員の数にゆとりがなく、休みが取りづらい。	職員の募集を行っても、人材確保が難しかった。人材を確保できなかった為に、職員一人ひとりへの負担が増し、結果長く続けられない職員もいた。 非常勤職員は、勤務時間が短い為に、職員間の連携や児童とのコミュニケーションが難しい。	従業員をすこしゆとりをもって雇用したいです。 非常勤職員を交えた会議や支援の前には、申し送りを行い、支援の方向性を伝えるようにします。 普段から些細な事でも、思いを発する機会を多くもてるように工夫をしたいと思っています。
3	保育士や障がい児の経験のある職員は充実しているが、言語聴覚士や心理士のセラピストの資格のある職員が少ないこと。	セラピスト職員を雇用するには、人件費がかかる。 非常勤職員で募集を行ったが、人材確保が難しい。 常勤職員でないと加算がとれない。	セラピスト職員を雇用できなくても、研修や保護者会として訪問してもらおう事で、支援につなげる事ができそうです。